

伝わりやすい英語でコミュニケーションを図る子供を育む英語科の授業 —得られた情報や伝えたい内容を整理することを通して—

I 主題設定の理由

グローバル化が進み、国内外で英語でコミュニケーションを必要とする機会が多くなった。伝えたい内容について、即興で伝え合い、意見や感想を述べたり、質疑応答したりする力が今まで以上に求められている。しかし、これまでの英語教育の課題として、ペアやグループでの活動、ディベートにおいて自分の意見や感想、質問を適切に返すことが不十分であることが挙げられている。また、話しながら話の流れを考えたり、聞きながら相手の話を予想して答えの準備をしたりするなど、やり取りはコミュニケーションにおいてとても重要である。

2021年度に完全実施される学習指導要領では、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、生涯にわたり、自ら方法を見つけて解決する力の育成が求められている。また、目標については、CEFR^{注1)}が言語を用いる行為をreception（受信）、interaction（やり取り）、production（発信）に分けているのを参考にして、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」に加えて「話すこと」を〔やり取り〕と〔発表〕に分けて5つの領域が設定された。〔やり取り〕が設定されたことは、準備に時間をかけることなく、伝え合うという双方向のコミュニケーションを図る資質・能力の育成が重視されていると言える。さらに、目標と内容において、「思考力・判断力・表現力等」に関する記載がなされ、今後は、コミュニケーションに関わる思考力等を高めていく必要がある。

これからの中学校の英語教育では、将来の予測が難しい時代を子供たちが生き抜くために、これらの力を身に付けさせる具体的な言語活動を設定して授業改善を行い、コミュニケーションを図る資質・能力を育成することが必要であると言える。

前研究シリーズでは、「気付きを促し、コミュニケーション能力を育む英語科の授業—批判的思考を用いるための構成要素に着目して—」という研究主題を設定し、研究に取り組んだ。コミュニケーション能力を育む手立ての一つとして、批判的思考を用いる場面を設定し、相手に伝わりやすくするために、内容について思考させることで、気付きを促し、子供たちは気付いたことを基に自分の原稿や発話にいかすことができた。これらの取組は、子供たちのコミュニケーション能力を育むことに有効であった。

しかし、自分が伝えたい内容を考える過程で課題が残った。自分が伝えたい内容を考える際に、伝えたい内容を広げるための情報が十分ではなく、僅かしか内容を考え出すことができずに、英語でうまく伝えることができない子供が見られた。また、そのような際に、自分では気付かなかった他の情報の存在に気付かせて、その情報を整理させることが必要であった。

そこで、英語科においては、研究主題を「伝わりやすい英語でコミュニケーションを図る子供を育む英語科の授業—得られた情報や伝えたい内容を整理することを通して—」と設定し、研究に取り組むこととした。

II 研究の概要

1 英語科で目指す子供像

本校英語科では、目指す子供像を以下のように設定し、研究に取り組むこととした。

得られた情報や伝えたい内容を整理して、伝わりやすい英語でコミュニケーションを図る子供

「得られた情報や伝えたい内容を整理」するとは、情報や内容の多様な選択肢を考え、それらを選択したり抽出したりすることである。また、情報や内容を統合することもある。そして、即興でコミュニケーションを図るに当たって、どのような順序で伝えればいいのかや、どのような表現を用いれば相手に効果的に伝わるのかといった談話構成について考えることも含まれる。

2 育みたい資質・能力

私たちは、英語科で目指す子供像に近づけるために、次の能力を育みたいと考えている。

正しい英語で表現する能力（文法能力）

伝わりやすい談話や文章を構成する能力（談話能力）

正しい文法や発音を用いることができなければ、伝えたい内容を正しく相手に伝えることはできない。また、相手に伝わりやすくするために内容について思考を働かせることは、コミュニケーションを図る資質・能力を育むために必要であると考え。なぜなら、子供たちは相手に伝わりやすくするために内容についていくつも考え、その中から自分の伝えたい情報を選択したり抽出したりするからである。

なお、コミュニケーションを図るための基礎となるアイコンタクトや声量などの社会言語能力、及びコミュニケーションストラテジーを使用する方略能力を育むことも重要であるが、検証の対象とはしない。

3 資質・能力を育むための手立て

近年の英語教育界で注目を集めている思考力を育む教育法にCLIL^{註2)}がある。CLILとは、言語教育と教科の内容とを統合した形で行う教育方法の総称である。教科内容を題材にしてさまざまな言語活動と指導を行い、外国語の5領域を向上させていくことを目指している。また、CLILを語る上で、「4つのC^{註3)}」が大切である。さらに、学習する際には、できるだけ私たちが現実に目にするオーセンティックな題材を活用することを奨励している。また、文字だけではなく、音声、数字、図、絵、写真や映像といった情報を活用することも奨励している。そうすることで、和泉伸一(2016)は、「理解や暗記に頼るだけの学習ではなく、応用、分析、評価、創造といったさまざまなレベルの思考力を刺激する」¹⁾ことができると述べている。この理論を参考にして、学習する言語材料の使用が必須となったり、必須とならずとも適したりする題材で、Advanced Activityを必要に応じて単元の中に設定し取り組ませる。また、やり取りや発表を行う際に、情報や内容について思考を働かせる場面を設定する。

(1) 拡散的思考と収束的思考を働かせる場面の設定

与えられたトピックや場面において、相手に伝わりやすくするために、情報や内容について考え、グループや学級で確認させる（拡散的思考）。その後、相手に伝わりやすい発話を行った

り、原稿を作成したりさせる（収束的思考）。その過程で、深い理解を伴った知識の習得のために、メタ認知を促進させることが重要である。そうするために、やり取りの発話の後や発表原稿の作成及び修正をしていく際に、なぜそのように発話したかや、原稿を修正した理由を記述させる（「モニタリング」）。また、活動の最後に、この活動を通してできるようになったこと、今後の活動にいかしていけることを記述させる（「リフレクション・モニタリング」）。このようにメタ認知を促進させることで、深い理解が伴った知識を習得することができると思う。

(2) 単元の基本的な学習の流れと教師の指導

単元の基本的な学習の流れとして、Training Section（以下TS）、Advanced Section（以下AS）、Reflecting Section（以下RS）の三つの場を設定する。各Sectionにおける活動は次のとおりである。

○三つの場の流れ
<div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center; gap: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">TS</div> → <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">AS</div> → <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">RS</div> → <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">AS</div> → <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">RS</div> </div>
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">Training Section (TS)</div> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書を活用し、コミュニケーションの基礎・基本を身に付けるためのトレーニングに取り組みさせる。なお、トレーニングでの活動は以下のとおりである。 <ol style="list-style-type: none"> ① Warm-up活動 ② 新出文法事項や新出語句の学習 ③ 教科書本文の内容把握 ④ 教科書本文の音読練習 ⑤ 新出文法事項を用いさせるコミュニケーション活動 ・学習の見通しをもたせるためにSpeaking Checker（後述3(4)参照）を提示する。 ・既習事項の復習や、Interview、Speechなどのコミュニケーション活動に取り組みさせる。 ・「Advanced Section」で活用できるような表現の練習や準備に取り組みさせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">Advanced Section (AS)</div> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを図る資質・能力を育むために、Skit、Role Playing、Show and Tell、Speech、Presentation、Drama、Debateなど、内容の伝達を重視した様々なタイプのAdvanced Activityを設定し取り組みさせる。 ・相手に伝わりやすい発話を行ったり、原稿を作成したりさせる（収束的思考）。（RS後の2度目のAS）
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">Reflecting Section (RS)</div> <ul style="list-style-type: none"> ・与えられたトピックや場面において、相手に伝わりやすくするために、情報や内容について考え、グループや学級で確認させる（拡散的思考）。（1度目のRS） ・Advanced Activityのモデルを視聴し、相手に伝わりやすくするにはどうしたらよいかを考えさせる。 ・Advanced Activityのモデルの伝わりやすさが、どのような表現や表現の仕方によるものなのかを学級全体で確認させる。 ・やり取りの発話の後や発表原稿の作成及び修正をしていく際に、なぜそのように発話したかや、原稿を修正した理由を記述させる（モニタリング）。（1度目のRS） ・前単元の評価と現単元の評価を比較させることで、コミュニケーションを図る資質・能力の高まりを実感させる。 ・CAN-DOリストを使用し、英語を用いて何ができるようになったのか振り返らせたり、次の学習到達目標は何であるのかを見通させたりする。また、Speaking Checkerを用いて次の学習の目

標を設定させる（「リフレクション・モニタリング」）。

(3) 学習を見通し、振り返るCAN-DOリスト【後掲資料1】

本研究では、英語を用いて何ができるようになるかという観点から学習を見通し、振り返るためにCAN-DOリストを使用する。このCAN-DOリストは、5領域「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」の学習到達目標を示したものである。各学年を前半と後半に分けた6段階と3年生後半の達成目標の先を見通すことができるように発展的な1段階を取り入れた7段階で構成する。CAN-DOリストは子供と教員が学習到達目標を共通理解するために年度初めに提示する。また、単元の始め及び単元終了時にCAN-DOリストを確認させ、子供たちに現在の学習達成状況を振り返らせたり、次の目標を確認させたりする。このCAN-DOリストを基に5領域の到達目標を達成させることが、コミュニケーションを図る資質・能力の向上につながると思う。

(4) CAN-DOリストと単元の学習を関連付けるSpeaking Checker【後掲資料2】

単元の学習の見通しをもたせたり、CAN-DOリストの各段階と単元にどのような関わりがあるのかを子供たちに知らせたりするためにSpeaking Checkerを作成する。Speaking Checkerには、単元の学習到達目標とCAN-DOリストとの関わりや、単元のAdvanced Activityに取り組む際の場面設定と気を付けさせたいことを明示する。そして、活動の際に、その活動を行うにあたって工夫したことと、教師が示すモデルを理解し、今後にいかせそうなことを記入させる。

4 資質・能力が育まれたかの評価について

育みたい資質や能力が子供たちにどの程度身に付いたかを評価することで、手立ての有効性を検証する。そのために、Speaking Checkerに示すルーブリックを基に、文法能力および談話能力が育まれたかをやり取りや発表から見取る。また、発話内容や原稿を基に全体傾向を示す抽出生徒を設定し、抽出生徒にどのような変容があるかを見取る。

5 1年次のねらい

- 4つの手立てを用いることが、得られた情報や伝える内容を整理して、伝わりやすい英語でコミュニケーションを図る子供を育むことに有効であるかを検証する。

注1) Common European Framework of Reference for Languages: Learning teaching assessment 外国語学習・教授・評価のためのヨーロッパ共通参照枠 縦軸は言語能力のレベルの記述があり、横軸は、聞くこと、読むこと、やり取り、表現、書くことの5技能に分類されている。

注2) Content and Language Integrated Learning 内容言語統合型学習 社会・理科などの教科や時事問題・異文化理解といったトピックの内容学習と言語学習を有機的に統合しその両方を学ぶ学習法。

注3) 「4つのC」とは、Content（科目やトピック）、Communication（語彙・文法発音などの言語知識や読む、書く、聞く、話すといった言語スキル）、Cognitionさまざまなレベルの思考力、CommunityまたはCulture（共同学習、異文化理解）である。ContentはASで、Communicationは単元全体を通して、CognitionはASとRSで、CommunityまたはCultureはASとRSで育む。

引用文献

- 1) 和泉伸一『フォーカス・オン・フォームとCLILの英語授業 生徒の主体性を伸ばす授業の提案』アルク、2016年、75ページ

参考文献

- 文部科学省『中学校指導要領解説外国語編』開隆堂，2018年
- 同『各中・高等学校の外国語教育における「CAN-DOリスト」』の形での学習到達目標設定のための手引き』，2013年
- 伊藤治己『アウトプット重視の英語授業』教育出版，2008年
- 金子朝子・松浦伸和『新学習指導要領の展開』明治図書，2017年
- 菅正隆『中学校教育課程実践講座外国語』ぎょうせい，2017年
- 吉島茂他編訳『外国語教育Ⅱ 外国語学習，教授，評価のためのヨーロッパ共通参照枠』朝日新聞社，2004年
- 投野由紀夫『英語到達度指標CEFR-Jガイドブック』大修館書店，2013年
- 高島英幸『英語のタスク活動とタスク』大修館書店，2005年
- 田中武夫・田中知聡『「自己表現活動」を取り入れた英語授業』大修館書店，2003年
- 鈴木渉『実践例で学ぶ第二言語習得研究に基づく英語指導』大修館書店，2017年
- 上山晋平『英語教師のためのアクティブ・ラーニングガイドブック』明治図書，2016年
- Swain, M.1998. Focus on form through conscious reflection. In C. Doughty & J. Williams (Eds.). New York: CAMBRIDGE University Press
- Do Coyle, Philip Hood, David Marsh 2010『CLIL Content and Language Integrated Learning』CAMBRIDGE University Press

平成30年度 CAN-DOリスト

愛知教育大学附属名古屋中学校 英語科

卒業時における学習到達目標

- ・英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。
- ・日常的话题や社会的な話題について、伝わりやすい英語で即興で伝え合ったり話したりすることができる。
- ・日常的话题や社会的な話題について、聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向や事実関係などを理解することができる。

- 説明と紹介に関すること
- 質問とその応答に関すること
- ☆ 場面に適した表現の選択に関すること
- △ 音読に関すること

後掲資料1

期間	話すこと[やり取り]	話すこと[発表]	書くこと	聞くこと	読むこと
今後	<ul style="list-style-type: none"> □ 議論、討論の中で考えや気持ち、根拠などを尋ねたり、答えたりすることができる。 ☆ 日常や社会生活の様々な状況や場面に応じて、適切な表現を選択してやりとりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 様々なテーマについて、自分の意見を相手に分かりやすくまとめて伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 様々なテーマについての自分の考えを明確にもち、それを英文で書くことができる。 □ 様々な状況に応じて尋ねたり、答えたりする文を書くことができる。 ☆ 様々な状況や場面に応じたやりとりを書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発表、議論、交渉などから必要な情報を聞き取ることができる。 □ 発表、議論、討論の中で考えや気持ち、根拠などの尋ねられていることを聞き取ることができる。 ☆ 学校生活、日常生活での様々な場面で必要な情報を聞き取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新聞、雑誌などを読んで、話の内容を読み取ることができる。 ○ 立場を主張している様々な文章を読み、その内容を詳しく読み取ることができる。 △ 様々な文章を読み、その内容が相手に伝わるような表現方法で音読することができる。
3年後期	<ul style="list-style-type: none"> □ 事実関係や根拠などの詳しい情報を尋ねて引き出したり、答えたりすることができる。 ☆ 場面や相手の立場を理解して、状況に応じた日常のやりとりができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 身近なテーマについて、自分の意見を、立場を明確にして主張することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 身近なテーマについての自分の立場とその理由を明確に書くことができる。 □ 事実関係や根拠などの詳しい情報を尋ねたり、答えたりする文を書くことができる。 ☆ 場面や相手の立場を理解して、状況に応じた適切な表現を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 議論から賛成か反対かとそれを支える理由を聞き取ることができる。 □ 事実関係や根拠などの尋ねられていることを聞き取ることができる。 ☆ 地図やグラフなどの資料と関連付けて、情報を聞き取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 説明文などを読んで、話の内容を読み取ることができる。 ○ 賛成か反対かの立場とその理由が書かれた意見文を読み、詳しく読み取ることができる。 △ まとまりのある英文を読み、場面にあった声量及び内容にあった表現方法で音読することができる。
3年前期	<ul style="list-style-type: none"> □ 期間やこれまでの経験について尋ねたり、答えたりすることができる。 ☆ 人にものをすすめるやりとりや、人をさそったり、提案したり、約束をしたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 様々な事象について、詳しい情報を加えて説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 様々な事象について、詳しい情報を加えて書くことができる。 □ 期間やこれまでの経験について尋ねたり、答えたりする文を書くことができる。 ☆ 自己紹介や質問を交えて手紙を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 詳しい説明のある紹介文、説明文から要点を聞き取ることができる。 □ 期間や、これまでの経験などの尋ねられていることを聞き取ることができる。 ☆ 資料などについて概要を聞き取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 身の回りのことを紹介している英文を詳しく読み取ることができる。 ○ ある事柄に関する感想文を読んで、その内容を詳しく読み取ることができる。 △ まとまりのある英文を読み、その文章が一番伝えたい部分を強調して音読することができる。
2年後期	<ul style="list-style-type: none"> □ 大きさや広さなど、事物の状態を比較して尋ねたり、答えたりすることができる。 ☆ 買い物先で自分のほしいものを買いたいものや道案内ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の考えを理由を付け加えて説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の考えを理由を付け加えて書くことができる。 □ 大きさや広さなど、事物の状態を比較して尋ねたり、答えたりする文を書くことができる。 ☆ 自分の好きなことやものについて自分の考えや理由を付け加えて書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 意見から賛成か反対かとそれを支える理由を聞き取ることができる。 □ 大きさや広さなど、事物の状態を比較して尋ねられていることを聞き取ることができる。 ☆ 乗り物での行き方を尋ねる場面や買い物の場面のやりとりを聞き取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 説明文などを読んで、その資料や話の概要を読み取ることができる。 ○ 賛成か反対かの立場とその理由が書かれた英文を読み取ることができる。 △ 立場を理解し、気持ちを込めて音読することができる。
2年前期	<ul style="list-style-type: none"> □ 過去や未来の出来事、きまりなどについて説明したり、相手に尋ねたりすることができる。 ☆ 丁寧に許可を求めたり、依頼したりするやりとりができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活動をする目的や、自分のしたいことについて情報を加えながら説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活動をする目的や、自分のしたいことについて情報を加えながら説明する文を書くことができる。 □ 過去や未来の出来事、きまりなどについて説明したり、相手に尋ねたりする文を書くことができる。 ☆ 自分の将来の夢について理由をつけて書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 何かをする目的や、自分のしたいことについての説明についての詳しい情報を聞き取ることができる。 □ 過去や未来の出来事、きまりなどについての説明や、尋ねられていることを聞き取ることができる。 ☆ 友だちの将来の夢について理由とともに聞き取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友だちからのメールや日記を読み取ることができる。 ○ 物語などを読んで、話の概要を読み取ることができる。 △ 場面に合わせて、正しい声量で音読することができる。
1年後期	<ul style="list-style-type: none"> □ 今何をしているかや、ものがどこにあるかなどの尋ねられていることについて答えることができる。 ☆ 身近な人に電話したり、依頼したりするやりとりができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第三者についての簡単な情報を紹介することができる。 ○ 思い出の行事や出来事を紹介することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 時制や伝わり方を意識しながら自分や他者について感想を交えながら書くことができる。 ○ 疑問詞や代名詞を用いて、具体的な質問をしたり、わかりやすく応答したりする文を書くことができる。 □ 自分の一日の生活や過去の出来事について書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第三者についての紹介や思い出紹介、理想の生活についての説明を聞き取ることができる。 □ 今何をしているかや、ものがどこにあるかなどの尋ねられていることを聞き取ることができる。 ☆ 道順を尋ねる場面や病院で体調を伝える場面でのやりとりを聞き取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 物語などを読んで、話の展開を読み取ることができる。 ○ 今何をしているかや、ものがどこにあるかなどの尋ねられていることを読み取ることができる。 △ 強勢やイントネーション、区切りなどに注意して、簡単な英文を正しく音読することができる。
1年前期	<ul style="list-style-type: none"> □ 相手のことを尋ねたり、答えたりすることができる。 ☆ 日常の挨拶や簡単なやりとりができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分や身の回りのことについて感想を交えて簡単に紹介することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分や他者について感想を交えて書くことができる。 □ 自分の気持ちや考えを踏まえながら相手のことを尋ねたり、質問に対して答えたりする文を書くことができる。 ☆ 身の回りの物や名前について正しく書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友だちや先生の自己紹介を聞き取ることができる。 □ 自分や他者に関することなどの尋ねられていることを聞き取ることができる。 ☆ 日常の挨拶や授業中の英語の指示などのやりとりを聞き取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 身の回りのことを紹介している簡単な英文を読み取ることができる。 ○ 簡単な英文を読み取ることができる。 △ アルファベット、数字、曜日などの身近な英単語を正しい発音で読むことができる。

Unit 3 "Career Day"

Speaking Checker

Class _____ No. _____ Name: _____

<場面設定>

Topic: "My Future Dream" あなたは友だちと自分の将来について語り合っています。将来へのあなたの熱い思いをわかってもらいましょう。

○単元の目標

- ・活動する目的や、自分がしたいことについて情報を加えながら説明することができる。
- ・何かをする目的や、自分がしたいことについての詳しい情報を聞き取ることができる。

[CAN-DOリスト 話すこと: 2年前半]
[CAN-DOリスト 聞くこと: 2年前半]

○こんなことを大切にしよう (対話時間2分)

話し手	・自分の将来の夢を明確に伝える。	聞き手の理解を助けるために、最初に将来の具体的な目標を伝えましょう。
	・目標をもった理由や今後の努力を伝える。	将来の夢をもった理由や実現するために今後努力することがあるはずです。それを伝えましょう。
	・わかやすい表現で伝える。	相手が理解しやすいように。簡単な英語を使ったり、文章を分けたりして伝えましょう。
聞き手	・相づちや表情で反応しよう。	思い出の素晴らしさが伝わるような声量や表情で伝えましょう。
	・質問をしよう。	より深い会話をするには質問は有効です。疑問詞を適度に使いながら質問をしよう。
	・2文以上で聞いてみよう。	質問文だけでは会話が深まりません。質問の前後に自分の考えを入れてみましょう。

○ 今回のペア活動で工夫したこと (理由とともに書く)

○ モデル対話から今後自分に生かせそうなこと

○ "My Future Dream" をわかりやすく伝えるために特に工夫したこと。そして次の目標に向けてがんばりたいこと。

Useful expressions & important things

New words

○評価指標
 <文法之力>

項目	自己評価	教師評価
両 正しい文法で表現することができた。	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
両 正しい発音で発音できた。	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
両 リンキングを意識することができた	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1

<談話構成之力>

項目	自己評価	教師評価
話 対話の中で具体的な内容や自分の思いを伝えることができた。	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
話 自分の意見を伝えた後に、相手に投げかけることができた。	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
聞 自分の思いや考えを加えながら質問をすることができた。	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1

<声量やアイコンタクトなどの伝える力>

項目	自己評価	教師評価
両 アイコンタクトをしながら話すことができた。	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
両 適切な声量で話すことができた。	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
話 表情豊かに話すことができた。	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1

<適切な間で、途切れなく流ちょうに話す力>

項目	自己評価	教師評価
聞 相づちなどで反応をすることができた。	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
両 伝わりにくい際に、別の表現やジェスチャーで補足することができた。	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
聞 相手が発話に困った際に、間をつなぐことができた。	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1

話 : 話し手 聞 : 聞き手 両 : 話し手・聞き手両方